



三国幼稚園跡地 の活用の方向性をお知らせします

園保育所・幼稚園課保育支援係 ☎72-6666

平成27年7月、市立幼稚園の入園児減少を踏まえ、市は、小郡市幼児施設審議会に市立幼稚園のあり方について諮問を行いました。その後、平成28年3月、審議会から「市立幼稚園は必要だが、園児数の減少や財政負担を考慮すると2園のままでの存続は厳しい」との答申を受けました。これを受け、平成31年4月から、三国幼稚園を小郡幼稚園と統合し、現在休園中です。

休園中の施設の活用について、市は、平成30年にアンケートやワークショップを通じて市民の皆さんのご意見をお聴きし、「今後の幼児施設のあり方に関する方針」を定めました。この方針に基づき、認定こども園※などの幼児施設を新たに設置する案を軸に、今後の幼児施設ニーズの動向予測などと合わせてこれまで調査研究を行ってきたところです。

このたびその成果を踏まえ、今後の活用について、次のとおり方向性を定めましたので、お知らせします。

小郡市長 加地良光

※認定こども園…幼稚園機能と保育所機能を併せ持つ施設

幼児施設の需要の現状

幼稚園と保育所のニーズの変化

現在、市内の幼稚園の園児受入には余裕があります。また、令和元年10月からの幼児教育・保育無償化の実施により、授業料の低さが強みであった公立幼稚園へのニーズは減少傾向です。

一方で、保育所ニーズはますます増加傾向にあるので、最優先の課題は保育所の待機児童対策であるといえます。

待機児童解消のカギは保育士の充実

保育所の定員増に向けて、施設の増築などを行い、施設面では待機児童数を超える園児受入能力を備えつつあります。しかし、待機児童解消は全国的な課題となっているため、施設整備に伴う保育士の確保が大変難しく、喫緊の課題となっています。

そこで、市が独自に行っている潜在保育士研修や保育士就職支援金などの取組に加えて、今後、幼児保育科がある大学と連携したインターンシップなどの新たな取組を展開し、保育士不足の解消に努めます。



まとめ

以上のことから、三国幼稚園跡地に、認定こども園などの幼児施設を新たに整備する必要性は低いと判断しました。今後は、「跡地は市民の貴重な財産である」という観点に立ち、あらためて市民の皆さんのご意見を伺いながら、幅広い活用方法を検討します。